

みんなので「つくる」ひろば

〔仮称〕みんなのひろばの整備を予定しています

町は、より良い遊び場を創出するとともに、全ての町民に対し、「集い」、「憩い」、「ふれあい」に寄与する「場」となる「〔仮称〕みんなのひろば」の整備に向け取り組んでいます。

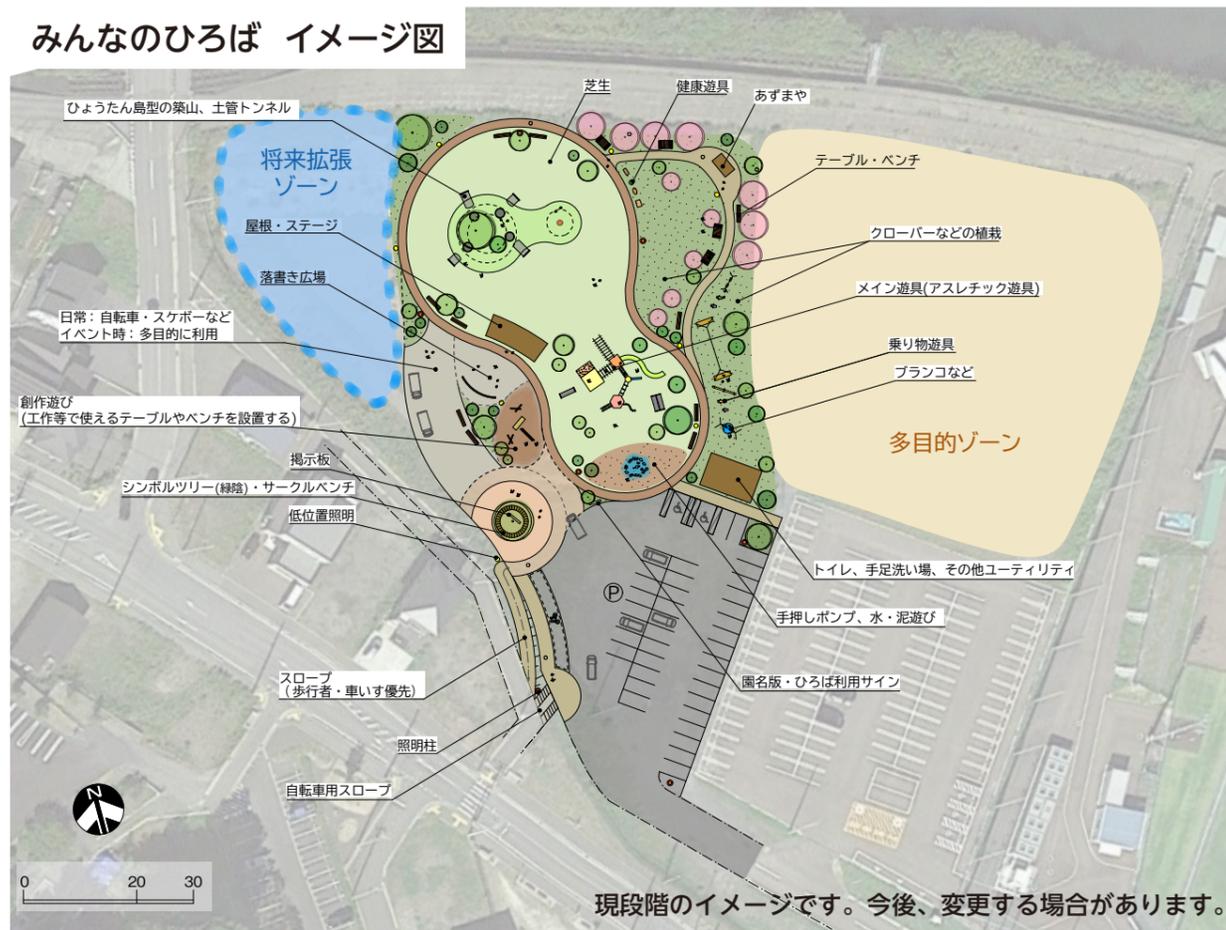


整備コンセプト

遊びをつくり つながりをつくり 思い出をつくる
みんなで『つくる』ひろば

- 遊具のみならず、草木や水場など自然の中で子どもたちが想像力を働かせ自由に遊びを創り出す
- 憩いの空間として多世代が交わり、思いやりや人のつながりを学ぶ
- 成長しても思い出の風景として残る大槌らしい空間

みんなのひろば イメージ図



吉里吉里中学校生徒会ワークショップの様子

次の3つの観点から、整備地には「旧岩手県立大槌病院跡地」がふさわしいと判断し検討を進めています。

(1) 敷地面積および立地条件
敷地が広く、公共的な空間として余裕をもって確保できること、大規模な運動施設に隣接し、一体的な維持管理などのメリットがあること。

(2) 安全性
車の往来が少なく、車道にほとんど面していないため遊び方を問わず安全性が高い場所であること。

旧大槌病院跡地へ整備

(3) 整備の自由度
「壁や地面に絵を描く」「ボール遊び」などのワークショップでいただいたさまざまなアイデアに対し、自由度の高い整備が実現可能であること。

子どもならではの意見

「みんなで『つくる』ひろば」のコンセプト実現のため、町内の小中高生の意見を取り入れ整備検討しました。高校生、中学校生徒会によるワークショップや、メイン遊具を決める町内全児童生徒の人気投票などを行い、子どもたちの声を具現化したひろばづくりを目指しています。ワークショップでは、地面などに絵を描ける「落書きひろば」など遊びのアイデアや、駐輪場の整備といった利便性に関する意見など、町民ワークショップでは出ていない子どもならではの意見も多く出されました。

(遊具投票結果は24ページ)
今年度は、これらの整備方針をもとに、みんなのひろばの実施設計を行っていきます。

ワークショップの結果などはホームページから



町民ワークショップの様子

協働による整備検討

町は、町民との協働で、より良い遊び場を創出することを目的に、昨年1月からワークショップによる話し合いを通じて検討を開始しました。

町民ワークショップには、公募による町民6人、大槌学園・吉里吉里学園・こども園・保育園・幼稚園の教員9人、大槌学園PTA・吉里吉里学園PTA 3人の計18人が参加し、子どもの遊びを中心としながらも、多世代が交流できる、大槌らしい空間にしていきたいといった意見が交わされました。

話し合いを通じ、整備のコンセプトを「遊びをつくり、つながりをつくり、思い出をつくる、みんなで『つくる』ひろば」として、次のような整備方針

町民ワークショップでの検討内容

回	内容
第1回	大槌の「今」を知ろう！
第2回	どの場所になにつくろう？
第3回	広場の姿をイメージしよう！
第4回	広場のカタチを決めよう！
第5回	広場にみんなの想いをそそぎこもう！
第6回	～ヒトゴトからジブンゴトへ～ 広場と向き合い、これからの考えよう！

- をまとめています。
- ① 子どもの創造的活動を中心に据えたひろばづくり
 - ② 安全・安心を考慮したひろばづくり
 - ③ 住民に親しまれる身近な憩いのひろばづくり
 - ④ 様々な利用者との交流を通じた賑わいのひろばづくり
- 子どもたちが想像力を働かせて自由に遊べる場所をつくることを大きなテーマとし、そのためには、ルールで縛るのではなく利用の仕方やマナーについて自分たちで考えたり学んだりしていく必要があること、大人たちもそのコンセプトをしっかりと理解して見守ることが重要です。